



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

2月号—No.298

2020.1.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【呉須色(ごすいろ)】深く渋い紺色。

呉須は、焼き物(主に磁器)の染め付けに使われるコバルトを含んだ鉱物およびそれからつくった顔料のこと。白地に紺色の呉須で図柄を描いた焼き物は呉須焼、染付と呼ばれ、有田焼の代表的な色として親しまれている。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の継続実施事例

財団からのお知らせ..... 4

「地域創造フェスティバル2020」開催のお知らせ / 地域創造ホームページリニューアルのお知らせ / 「2019年度地域の公立文化施設実態調査」ご協力の御礼

今月の情報..... 5

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

札幌市 サッポロ・シティ・ジャズ2019冬プログラム  
「THEATER JAZZ LIVE」

## ●公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)

# おんかつを契機としたアウトリーチ事業の継続事例

### 公共ホール 音楽活性化事業 (おんかつ)の 継続実施事例

写真左:塚越慎子さんによるアクティビティ  
(2019年11月21日/美作市立大原中学校  
1年生)

右:ピアノトリオ・ミュゼによるアクティビティ  
(11月22日/勝央町立勝央北小学校4年生)

#### ●令和2(2020)年度「公共ホール音楽活性化事業・支援事業」

現行のフォーマットを見直し、新たな枠組みで事業を実施します。仕組みをわかりやすくシンプルなものとするともに、対象団体および対象経費を拡大することで、実施団体においては現行の仕組みよりも柔軟な事業展開が可能となります。また、過去に当該事業を実施した団体も一定の条件のもとで改めて参加できるようにします。

#### ◎公共ホール音楽活性化事業[導入プログラム]

現行のおんかつ事業から事業内容の変更はありませんが、おんかつ未実施の市町村等に加えて、管理運営者の変更や同一団体内での担当者の変更によりノウハウの蓄積が失われてしまった経験市町村等でも、一定の条件を満たせば実施可能となります。

#### ◎公共ホール音楽活性化支援事業[支援プログラム]

現行のおんかつ支援事業、発展継続事業、発展継続支援事業、文化庁連携事業を一本化し、原則として最大5カ年までに限り実施可能となります。助成対象経費を上限100万円とし、地域交流プログラムのアクティビティに加えて公演に係る直接経費も対象となり、1年目は2/3、2年目以降は1/2(従来は1/3)を支援します。対象団体は、これまでの経験団体となりますが、過去の実績や提出いただく計画書から判断し、予算の範囲内で選定します。また、支援プログラムに申請した場合でも、実施状況によっては導入プログラムからの実施を推奨することもあります。

#### ●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 永田  
Tel. 03-5573-4069



地域創造では、1998年からクラシック音楽を地域で身近なものとするための「公共ホール音楽活性化事業」(おんかつ)を立ち上げ、20年以上にわたり枠組みを変えながら多角的な取り組みを行ってきました。市町村ホールがコンサートやアウトリーチを実施するための財政的支援、ホール職員の企画制作能力を高める研修会、演奏家のアウトリーチプログラムの開発合宿、ホール職員と演奏家が会合の創出など。そうした取り組みによってアウトリーチという手法が大きくクローズアップされ、今では全国に定着しています。

そうした中で常に課題となっているのが、地域における事業の継続です。岡山県内では美作市、勝央町、和気町、真庭市の4市町が公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)の枠組みを活用するなどして継続を実現。今回は、2019年11月21日に美作市、22日に勝央町の取り組みを視察するとともに、4市町の事業担当者に継続することの意義や課題、成果などを取材しました。

#### ●企画制作の基礎を学ぶ～美作市

美作市は昨年度初めておんかつに取り組み、今年度はおんかつ支援で塚越慎子さん(マリンバ)を招きました。21日は大原中学校の1年生を対象にアウトリーチ。マーチングシロフォン(歩きながら演奏できる木琴)を演奏しながら登場した塚越さんを見て、驚く中学生たちにマリンバの定番曲だけでなく、童謡をワルツやジャズといったさまざまなアレンジで聴かせるなど、音楽の表現力を伝える登録アーティストならではの行き届いたアクティビティを展開。

質問コーナーでは、プロの音楽家としてのキャリアの話にみんな熱心に耳を傾けていました。

担当者は、「昨年はやることすべてが初めての経験で、おんかつでコンサートの企画制作の基礎や運営の細かい配慮まで学ぶことができました。おんかつでは、プレゼンテーションを聴いてアーティストを選べるので、チケットを販売する際にも『きっと地域の人が喜んでくれる』と自信をもって薦められます。子どもたちが音楽に引き込まれる様子や喜ぶ姿を目の当たりにし、自分の音楽に対する意識も変わりました」と振り返っていました。こうした職員自身の深い気づきやモチベーションの向上と、専門的な指導・助言を有効的に活用していることが、事業継続の実現につながったようです。

#### ●ノウハウの継承を想定した取り組み ～勝央町

勝央町の直営による勝央文化ホールが初めておんかつに応募したのは平成21(2009)年度で、小谷口直子さん(クラリネット)と福島青衣子さん(ハープ)を招きました。以来、おんかつ支援2回、おんかつ支援・文化庁連携の事業枠を活用し、これまで8年間、全14組のアーティストによるアクティビティを実施してきました。文化庁連携の4年目にあたる今回は、ピアノトリオ・ミュゼを招き、22日には勝央北小学校2・4年生を対象にアウトリーチ。ヴァイオリン、チェロ、ピアノについての楽器説明やトリオの演奏の後、ホールが用意したヴァイオリン3挺を使った演奏体験でピアノと共演。音楽を介した密度の濃い交流が実現していました。

おんかつの対象となっている市町村ホールは

少ない人員体制で運営している小規模館が多く、体制づくりも課題になっています。担当者の竹内祐三さんは、「おんかつで職員が総がかりになることで組織に一体感が生まれ、経験値も上がり、他の職員がやっている仕事も理解できるようになりました。私はおんかつを経験した後、他部署に異動になり、再びホールに戻りましたが、ホール全体の業務が引き継がれなければ、おんかつを引き継ぐことはできません。そのための業務マニュアルの作成と後任の育成に力を入れています」と話していました。

### ● 継続するために～組織内の協力と支え合いのネットワーク

今回はアクティビティの模様取材することができませんでした。平成26(2014)年度から3年続けておんかつ、おんかつ支援に参加した真庭市の久世エスパランド(真庭エスパ文化振興財団)と平成26(2014)年度からおんかつ、おんかつ支援、おんかつ支援・文化庁連携に参加している和気町が直営する学び館「サエスタ」の職員からもお話を伺いました。

4館の担当者が口を揃えるのは、それまであまり自主事業を実施する機会に恵まれなかった小規模館がおんかつに組織全体で取り組むことにより組織に変化が生まれるということです。「おんかつが走り出したらチームのみんなが動くし、年に1度の“お祭り”のような感じになる」ことで、組織内部の連携や協力が深まり、事業の持続を可能にしていると言います。

一方、自治体の直営で運営されることの多い市町村ホールでは職員の異動が前提であり、事業を継続する上での課題となっています。前任者からおんかつを引き継いだ経験のあるホール職員は、「異動があるからこそ逆に組織の結束力が必要で、前任者の異動先の部課との交流や連携も生まれる」とポジティブな面を評価していました。

岡山県では、長年、おんかつや音楽事業に取り組んでいる経験豊富な職員が勝央町や真庭市にいて、仲間意識が生まれ、さまざまな相談に乗るなど、ゆるやかな支え合いの

ネットワークがあることも事業の継続を可能にする要因のひとつになっています。

### ● 地域の未来のための投資

勝央文化ホールと久世エスパランドでは、おんかつだけでなく、ホールの独自事業としてアウトリーチに取り組み、そのための財政的な措置をしています。勝央文化ホールでは、鑑賞型の公演事業よりも先にアウトリーチ系の普及啓発事業から予算を固め、保育園から中学校までアウトリーチを実施しています。真庭市はエスパランドの予算とは別に、市がアウトリーチの予算を計上してエスパ財団に委託しています。

こうして継続することにより、アウトリーチに対する地域の理解や支持が得られることも期待できますが、一方、数字でその成果を示すことが困難であることも共通の課題となっています。数値的な評価に縛られるあまり、件数をこなしてアウトリーチをやること自体が目的になってしまう恐れもあります。手段の目的化に陥らないようにするためには、「何のために、誰を対象にするのかをきちんと説明することが大事だ」との声も聞かれました。

アウトリーチの成果については、子どもたちの感受性への影響はもちろんですが、「ホールに理解や共感をする地域住民、いわゆる“サイレントパトロン”が増えた」、「ホール職員の仕事を理解してくれる人や信頼してくれる人が地域に増えた」というホールの地域への普及に寄与する事業になっているようでした。「今の小学生が親になった時、おんかつで経験したことを子どもに語れるような地域になれば」というホール担当者の声印象的でした。

地域創造の公共ホール音楽活性化事業は、地域の方々によりわかりやすく、より活用していただけるよう、原点に戻って事業の枠組みを見直しました(左欄参照)。ぜひ、こうした事業を活用していただき、クラシック音楽の普及、創造的な人材育成、ホール事業への理解を深める取り組みをしていただければと思います。

(取材:おんかつアドバイザー・大澤寅雄さん)

- 岡山県内4市町のおんかつ実績
- ◎勝央町
- H20 おんかつアウトリーチフォーラム MINTO(木管五重奏) (\*1)
- H21 おんかつ(通常)
- 小谷口直子(クラリネット)、福島青衣子(ハープ)
- H23 おんかつ支援 Quintet H(木管五重奏)
- H24 おんかつ支援 村上敏明(テノール)
- H28 おんかつ文化庁連携 早稲田桜子(ヴァイオリン)
- H29 おんかつ文化庁連携 浜まゆみ(マリンバ)、デュエットウ かなえ&ゆかり(ピアノデュオ)
- H30 おんかつ文化庁連携 乗松恵美(ソプラノ)、泊真美子(ピアノ)
- R1 おんかつ文化庁連携 ピアノトリオ・ミュゼ(ピアノトリオ)
- ◎真庭市 (\*2)
- H20 おんかつアウトリーチフォーラム アルモニューズカルテット(弦楽四重奏) (\*1)
- H21 おんかつ(通常) 吉川健一(バリトン)
- H26 おんかつ(通常) 高見信行(トランペット)、田村真寛(サクソフォン)
- H27 おんかつ支援 村上敏明(テノール)、沢崎恵美(ソプラノ)
- H28 おんかつ支援 Quatuor B(サクソフォン四重奏)
- ◎和気町
- H26 おんかつ(通常) 中井亮一(テノール)、廣田美穂(ソプラノ)
- H28 おんかつ支援 Buzz Five(金管五重奏)
- H29 おんかつ支援 Quatuor B(サクソフォン四重奏)
- H30 おんかつ文化庁連携 BLACK BOTTOM BRASS BAND(ブラスバンド)
- R1 おんかつ文化庁連携 廣田美穂(ソプラノ)
- ◎美作市
- H30 おんかつ(通常) 糸賀修平(テノール)
- R1 おんかつ支援 塚越慎子(マリンバ)

\*1 H20 おんかつアウトリーチフォーラムは岡山県が県内6市町と連携して実施。

\*2 H20・H21は真庭市が実施(H26以降は真庭エスパ文化振興財団が実施)

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

### ●「地域創造フェスティバル2020」開催のお知らせ(5月25日、26日)

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介し、公共ホールや地方公共団体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェスティバル2020」を東京芸術劇場で開催します。例年7月末頃に行っていますが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を考慮し、次年度は時期を前倒し、例年と一部内容を変更しての実施となります。

出演者情報等のプログラム詳細および参加者募集につきましては、4月号でご案内します。皆様のご参加をお待ちしております。

#### ●地域創造フェスティバル2020概要

[日程] 2020年5月25日(月)、26日(火)

[会場] 東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)

- 公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)のプレゼンテーション・セミナー
- 公立文化施設に関するセミナー
- 都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議
- 情報交換会

※公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)プレゼンテーションは、10月6日(火)に横浜赤レンガ倉庫1号館にて開催予定です。



おんかつ支援プレゼンテーション(松尾俊介さん(クラシック・ギター)と福島青衣子さん(ハープ))

### ●地域創造ホームページリニューアルのお知らせ

当財団ホームページが2月25日に全面リニューアルいたします。リニューアル後もアドレスの変更はなく(www.jafra.or.jp)、これまでどおりアクセス可能です。

今回のリニューアルではセキュリティを強化するほか、主なコンテンツはそのままにユーザーの皆様により使いやすく、目的の情報にたどり着きやすいようにメニュー等を改良しました。

機能面での大きな変更点としては、劇場・ホールの皆様にご活用いただいている「公共ホール等求人情報」を使いやすく即時的に情報掲載ができるように、新たに投稿フォーム機能を採用しました。また、地域創造レターや事業実績など当財団の25年間分の蓄積した情報を整理し、過去の情報にもアクセスしやすいよう配慮しました。その他の変更点や詳細は次号(3月号)でご案内いたします。

※2月25日はホームページが表示されにくくなる場合があります。御了承の程よろしく申し上げます。

#### ◎主な変更点

- 「公共ホール等求人情報」「人材育成研修開催情報」に投稿フォーム機能を採用
- 地域創造レターのバックナンバーをコーナー別に表示可能な絞り込み機能を導入
- 事業実績をアーカイブし、検索可能なデータベースを作成
- JIS規格のウェブアクセシビリティに配慮
- スマートフォン・タブレットの表示に対応

### ●「2019年度地域の公立文化施設実態調査」ご協力の御礼

当財団が約5年に1度の頻度で実施する「地域の公立文化施設実態調査」の2019年度調査にご協力いただき誠にありがとうございます。皆様から回答いただきました調査票は、現在集計作業を行っております。

調査結果につきましては、今年度内に集計・分析を行い、次年度に報告書を発行いたします。また、過去の調査報告書は当財団ホームページからダウンロードできますので、今後の地域文化施策の充実と公立文化施設の活性化の一助としてぜひご活用ください。

#### ●「地域創造フェスティバル」に関する問い合わせ

芸術環境部 青井  
Tel. 03-5573-4093

#### ●地域創造ホームページに関するお問い合わせ

芸術環境部 三田  
Tel. 03-5573-4066

#### ●「地域の公立文化施設実態調査」に関する問い合わせ

芸術環境部 青井  
Tel. 03-5573-4093

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

## 地域通信

### ●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 児島・三田

●2020年4月号情報締切  
2月28日(金)

●2020年4月号掲載対象情報  
2020年4月～6月に開催もしくは募集されるもの

### 地域創造ホームページ「人材ネットバンク」掲載情報募集

当財団ホームページ内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報  
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報  
掲載・申込方法など詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

## 北海道・東北

### ●札幌市

札幌文化芸術交流センターSC ARTS

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ2F

Tel. 011-271-1955 小山冴子  
<https://www.sapporo-community-plaza.jp/scarts.php>

### +A&T 02「乙女電芸部と札幌の冬を考えよう!展」

「アート×テクノロジー」をテーマに、アーティストや研究者、子どもたちと共に創作する「場」をつくっていくプロジェクト「+A & T(通称: プラプラット)」。

第2弾は「電子工作」をテーマに、テクノロジーをベースに活動するDIYグループ「乙女電芸部」を迎え、中高生と共に札幌の「冬」を楽しくする道具や装置を制作。完成した作品を展示するとともに、発想のプロセスや制作の様子もパネルや映像で紹介する。

[日程] 1月8日～2月11日  
[会場] 札幌文化芸術交流センター SCARTS



ワークショップの様子

### ●青森県十和田市

十和田市現代美術館  
〒034-0082 十和田市西二番町10-9

Tel. 0176-20-1127 大谷紗絵  
<http://towadaartcenter.com/>

### 冬眠映像祭Vol.1「かいふくのいずみーインディペンデント・アニメーション、最前線!」

日本を代表するインディペンデント・アニメーション作家3組が一堂に会する展覧会。映像作品を

はじめ、3組が十和田市に滞在し着想を得て共同制作した新作のほか、映像や絵画、彫刻、オブジェなどを組み合わせた空間展示が見どころ。作家とゲスト・キュレーターの土居伸彰によるオープニングトークや、短いアニメーションをつくるワークショップも開催。

[日程] 1月25日～4月5日  
[会場] 十和田市現代美術館

### ●仙台市

仙台市民文化事業団  
〒981-3133 仙台市泉区泉中央2-18-1

Tel. 022-375-3101 松本俊幸  
<http://www.bunka.city.sendai.jp/izumity21/>

### イズミノオト 第1回「ブラームスノ雨ノ歌」

継続的な文化事業発信を考える仙台市泉区に立地するホールの思いと、自身が育った泉区のホールから音楽を通して地元へ恩返しをしたいというチェロ奏者・吉岡知広の思いが一致して企画されたコンサートシリーズ。毎回ひとりの作曲家を取り上げ、その生涯と音楽を楽しんでもらう。告知チラシでは、その作曲家の生涯と作品の創作背景を年表とともに簡潔に紹介している。

[日程] 2月8日  
[会場] 仙台銀行ホールイズミティ21

### ●山形県山形市

山形県生涯学習文化財団  
〒990-0047 山形市旅籠町3-4-51

Tel. 023-635-5500 奥山道  
<http://www.gakushubunka.jp/bunsyokan/>

### 「異響の共鳴」—尺八群と和楽器、合唱、ピアノのために—

尺八の魅力発信を精力的に行っている山形尺八倶楽部による

演奏会。尺八のみによる演奏のほか、山形にゆかりのある演奏家や合唱団を招き、琵琶や箏との合奏や、ピアノや女声合唱とのコラボレーションなど行う。また、作曲家の佐々木良純による新作作曲の初演も行われる。日本の伝統的な音楽の魅力を発信するとともに、邦楽と洋楽の融合による新たな価値の創造を目指す試み。

[日程] 2月9日  
[会場] 山形県郷土館「文翔館」

## 関東

### ●群馬県高崎市

高崎芸術劇場  
〒370-0841 高崎市栄町9-1  
Tel. 027-321-7302 串田千明  
<http://takasaki-foundation.or.jp/theatre/>

### 高崎芸術劇場 能舞台披露公演

2019年9月20日に開館した高崎芸術劇場の多目的な中劇場「スタジオシアター」に設置された専用の能舞台の完成を祝うこけら落とし公演。観世清和、野村萬斎らによる祝祭的な演目である『翁』のほか、高崎市出身の下平克宏らによる『石橋』などを上演し、能舞台を市民に披露する。  
[日程] 2月15日  
[会場] 高崎芸術劇場

### ●さいたま市

さいたま市プラザノース  
〒331-0812 さいたま市北区宮原町1-852-1  
Tel. 048-669-0300 安藤肇  
<http://www.plazanorth.jp/>

### Domain of Art 24

### 梶浦聖子展「きのう おじいちゃんが生まれたって」

精力的に表現活動が続ける現代美術家を紹介するシリーズ企画展。24回目となる今回は、鑄造作家・梶浦聖子を取り上げる。猫をモチーフにした鑄造作品を主人公に、布を用いた大型彫刻

作品やドローイングなどが共演するインスタレーションを展示。猫の主人公が、時空を超えて見てきたもの、関わってきたものとは何だったのか、見る者の想像をかき立てる遊び心あふれる内容になっている。

[日程] 2月22日～3月15日

[会場] さいたま市プラザノース

#### ●埼玉県東松山市



東松山文化まちづくり公社

〒355-0024 東松山市六軒町5-2

Tel. 0493-24-2011 鈴木和幸

<https://theater.pac.or.jp/>

～平成家族物語～舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第2弾 『枇杷の家』演劇公演

平成を生きた大都市周辺の地域や家族をテーマに公募した戯曲を、朗読劇・演劇・音楽劇と形を変えて上演する3か年プロジェクト。全国公募43作品の中から、東松山を舞台に、シェアハウスで同居する50～60歳代の女性たちの「くっちゃべり芝居」が繰り返される緑川有の『枇杷の家』が「東松山戯曲賞」優秀作品に選出。昨年、朗読劇に続き、今年、戯曲の審査も務めた瀬戸山美咲の演出で演劇作品として上演される。キャストは一般公募で選ばれ、市民ボランティアスタッフも募集する。

[日程] 3月7日、8日

[会場] 東松山市民文化センター

#### ●埼玉県戸田市

戸田市文化会館

〒335-0022 戸田市上戸田4-8-1

Tel. 048-445-1311 村松美幸

<http://www.todacity-culturehall.jp/>

戸田市文化会館文化推進プロジェクト 市民ミュージカル

『ザ・リバー ―二本の樫―2020』

戸田市の新たな文化資源の発掘と創造を目指して2005年に

スタートした市民ミュージカル事業。子どもから大人まで多くの市民が参加する作品を企画・制作し、今年で14回目の実施となる。今回は1964年の東京オリンピックでボート競技が行われた戸田ボートコースを舞台にした人気作(06年初演)を、全編生演奏で再演。市民と舞台のプロが一丸となってつくり上げる本格的ミュージカルとなっている。

[日程] 2月9日

[会場] 戸田市文化会館



『ザ・リバー ―二本の樫―2016』より

#### ●千葉県市川市

NPO法人いちかわ市民文化ネットワーク

〒272-0834 市川市国分7-12-5

Tel. 047-369-7522 吉澤良美

<https://ichibun.net/challenged/>

チャレンジド・ミュージカル第12回公演『七人の八百屋お七』

「障がいのある人もない人も一緒に楽しく挑戦しよう!」をテーマに始まった参加型ミュージカル。12回目となる今回は、歌舞伎へのチャレンジ第2弾として、「八百屋お七」のお話を扱う。出演者、舞台スタッフや稽古補助など、さまざまな形で参加できる。またたくさんの人が活躍できるように、公演はダブルキャストでの実施。「自分にもできる!」と参加者が生き生きと楽しめる場として好評を得ている。

[日程・会場] 2月1日、2日:市川市文化会館/29日:千葉県文化会館

#### ●千葉県浦安市

J:COM浦安音楽ホール

〒279-0012 浦安市入船1-6-1

Tel. 047-382-3035 中森徹

<https://www.urayasu-concerthall.jp/>

中村蓉×カルテット・エクセルシオ J:COM浦安音楽ホールダンスワークショップ2019

今年で3回目となる、毎年好評の中村蓉によるダンスワークショップの成果発表公演。中村はルーマニア・シビウ国際演劇祭賞や、第5回エルスール財団新人賞等の受賞経験をもつコンテンポラリーダンサー。今年、当ホールレジデンシャルアーティストのカルテット・エクセルシオとのコラボが実現。弦楽四重奏による全編生演奏とともに、中村と小中学生15人の市民ダンサーが踊る。

[日程] 2月23日

[会場] J:COM浦安音楽ホール



ワークショップの様子

#### ●東京都文京区



文京シビックホール

〒112-0003 文京区春日1-16-21

文京シビックセンター

Tel. 03-5803-1103 鈴木・中根

<https://www.b-academy.jp/hall>

“ぶんぎょう演劇塾”卒業公演『あの時、アクアリウムで』

文京シビックホール主催の演劇ワークショップ受講生の卒業公演。20～60歳代の17人が、俳優・演出家の金田誠一郎の指導の下、8か月間の稽古を経て公演に臨む。さらに今回は舞台手話通訳者も公募。演出家と舞台手話通訳者からレクチャーを受けた通訳者も出演者として舞台に立ち、時には共に演じながら、台詞や情景を観客に伝える。

[日程] 2月2日

[会場] 文京シビックホール

#### ●東京都江東区

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1 (木場公園内)

Tel. 03-5245-4111 森山朋絵

<https://www.mot-art-museum.jp>

ダムタイプ

アクション+リフレクション

国内外で多くの展覧会を企画する長谷川祐子のキュレーションによりフランスで開催されたダムタイプの展覧会を、新作やパフォーマンスのアーカイブを加えて再構成。ダムタイプは1984年に京都で結成されたメディアアーティストグループ。これまでの活動を総覧する内容になっているが、回顧展としてではなく、メンバーを入れ替えながらも活動を続けてきたダムタイプが現代にどのような意味をもつか問いかける展示となっている。

[日程] 2019年11月16日～2月16日

[会場] 東京都現代美術館

#### ●東京都府中市

府中市美術館

〒183-0001 府中市浅間町1-3

Tel. 042-336-3371 神山亮子

<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/>

青木野枝 霧と鉄と山と

鉄を繋ぎ合わせた作品で知られる彫刻家・青木野枝の、関東では20年ぶりとなる大規模個展。作品のほぼすべてを展示場所に合わせて制作し、「つくる・置く・崩す」の営みのなかに自らの彫刻があると考え、実践してきた青木。本展では、府中市美術館の空間に合わせて構想した新作とともに、石膏を用いた「原形質」シリーズや最初期の丸鋼で造形した彫刻作品などが展示される。

[日程] 2019年12月14日～3月1日

[会場] 府中市美術館

## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### ●横浜市

横浜市民ギャラリーあざみ野  
〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内  
Tel. 045-910-5656 天野・佐藤・日比谷  
<https://artazamino.jp/>

#### あざみ野フォト・アニュアル「田附勝 KAKERA きこえてこなかった、私たちの声」展

日本における写真発祥の地のひとつとしてカメラ・写真のコレクションや企画展に力を入れている同施設で、現代の写真表現を紹介する展覧会シリーズの一環として開催される。写真家・田附勝は、「写真界の芥川賞」とも呼ばれる木村伊兵衛写真賞を受賞した注目作家。本展では博物館の収蔵庫や発掘現場で保管されている縄文土器のかけらを箱の中敷きや梱包材である新聞紙とともに撮影した「KAKERA」シリーズを展示する。

[日程] 1月25日～2月23日

[会場] 横浜市民ギャラリーあざみ野

### ●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団  
〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45

Tel. 0467-88-1177 藤川悠

<http://www.chigasaki-museum.jp/>

#### 城田圭介—写真はもとより PAINT, SEEING PHOTOS—

写真の延長線上に架空の風景を描き足す作品や、写真から人物だけを抜き出して描く絵画作品など写真と絵画を用いた独自の表現手法で知られ、国内外で注目されている茅ヶ崎市在住のアーティスト・城田圭介の国内美術館での初めての個展。城田の最新作および初公開作品を含む200点以上の作品が展示される

[日程] 2019年12月14日～2月11日

[会場] 茅ヶ崎市美術館

### 北陸・中部

### ●新潟市

新潟市美術館  
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9  
Tel. 025-223-1622 松本美樹  
<http://www.ncam.jp/>

#### コレクション展Ⅲ かわいい!かわいい?

今年度のコレクション展第3弾。慣れ親しまれた「かわいい」という言葉から、絵画作品の多様な魅力を探る。展示は4つの章に分かれ、愛らしい子どもや動物たちから、やわらかい素材感や明るい色合いの抽象画、さらにはユーモア溢れる作品やちょっとな気味なモチーフまでバリエーションはさまざま。関連して、新潟在住のアーティストによるワークショップなども開催する。

[日程] 2019年12月6日～4月19日

[会場] 新潟市美術館



中村琢二《湯沢のゲレンデ》1954年

### ●富山県富山市

富山県美術館  
〒930-0806 富山市木場町3-20  
Tel. 076-431-2711 丸山多美子  
<https://tad-toyama.jp/>

#### START☆みんなのミュージアム2020 わたしの色、ぼくらのセカイ

現代美術家の塩川岳を招待アーティストに迎え、「わたしの色、ぼくらのセカイ」をテーマに、県内の小・中・高・特別支援学校の子どもたちが制作した個性あふれる作品を展示する。会期中は創作・体験コーナーが設けられ、塩川の企画によるワークショップで制作された作品も

### Topics

#### ●小学校のプログラミング教育と音楽アウトリーチが合体

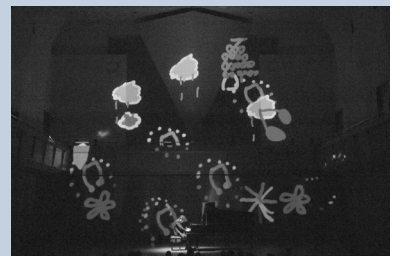
昨年12月22日、小学6年生がViscuit (ビジュアルプログラミング言語)を用いてつくった映像と、ピアノ演奏を融合させた面白いコンサートが、三鷹市芸術文化センターで行われました。これは同センターが、2005年から地域創造のおんかつをきっかけに実施してきた市内小学校訪問演奏事業に出演した演奏家を招いて開催する、ファミリーコンサート「小学生からのクラシック」として開催したもの。当日は、多くの家族連れが田村緑(ピアノ)、神谷未穂(ヴァイオリン)、鶴木絵里(ソプラノ)、風の五重奏団といった錚々たるメンバーによるトークを交えた演奏を満喫。中盤では、子どもたちが制作した映像がホール正面の壁全面にプロジェクターで映し出される中、ピアニストの中川賢一さんが3曲を披露し、音楽と映像が一体となった演出が行われました。

この映像は、中川さんが三鷹市立第一小学校を訪問し、6年生と共に制作。教室で中川さんが約1時間、繰り返し演奏するピアノの音色を聴きながら、子どもたちが音楽のイメージを動画作品にしたもので、楽曲は、ドビュッシー作曲『花火』など子どものイメージを刺激し、かつコンサートのプログラムとしても相応しい作品が選ばれました。

プロジェクトは、3年前、音楽のイメージを絵画にするという内容でスタートし、昨年度からはViscuitを用いた授業も開始。図工教諭の崎村紅葉先生は、「間近で生の音楽演奏を全身で感じ表現することで、感性が揺さぶられたと思います」と話し、企画者でもある中川さんは、「5年生で、音楽を聴きながら直感的に絵を描くことを経験した子どもたちが、6年生になり、今度はプログラミングというやり直しができる手法で、よりよいものに仕上げていくプロセスの違いが印象的でした」と振り返っていました。小学校の新指導要領では2020年からのプログラミング教育の全面実施が掲げられており、こうした新たな試みの可能性を強く感じさせる取り組みでした。

●クリスマスファミリーコンサート  
2019「小学生からのクラシック『動物の謝肉祭』」  
[会場] 2019年12月22日  
[会場] 三鷹市芸術文化センター風のホール

本公演より  
©Minoru Kimoto



展示する。来館者が実際に作品をつくり、参加することで世代を問わずアートを気軽に体感できる。

[日程] 1月18日～2月24日

[会場] 富山県美術館

●富山県砺波市  
砺波市文化会館



〒939-1382 砺波市花園町1-32  
Tel. 0763-33-5515 小幡豊

<https://tonamibunka.or.jp/bunka/>

#### となみの合唱祭Ⅲ

“合唱の感動を地域の人々とともに”をテーマに、平成29年度より3カ年計画で実施している事業「合唱創造となみ」の集大成となる演奏会。多世代合同のワーク

ショップなどで練習を重ねた市内の学校の合唱部員や社会人合唱団員、公募参加者の約200人が出演。作曲家・三宅悠太のオリジナル曲をオーケストラ・アンサンブル金沢と初演する。

[日程] 2月2日

[会場] 砺波市文化会館

### ●福井県坂井市

堺市文化振興事業団

〒913-0042 坂井市三国町中央1-5-1

Tel. 0776-82-7200 中村弥生

<http://www.sakai-bunka.jp/miraihall/>

### 市民劇団「十一ぴきのネコ」

1995年、地元高校生の声を受け創設した「演劇教室MAFF (Mikuni Act for Future)」が、2017年から1年ごとに市民を公募して行っている演劇公演。今年度はMAFF発足25周年を記念し、団員による「中高生のための演劇体験教室」や地元高校でのアウトリーチを開催。体験教室修了生の一部も今回の公演に加わる。井上ひさしによるミュージカル仕立ての本作品を上演するのは12年ぶり。

[日程] 2月15日、16日

[会場] 坂井市みくに市民センター  
みくに未来ホール

### ●愛知県春日井市

かすがい市民文化財団

〒486-0844 春日井市鳥居松町5-44 (文化フォーラム春日井内)

Tel. 0568-85-6868 伊藤寛隆

<https://www.kasugai-bunka.jp/>

### 演劇×自分史 第3弾「春よ恋」

「日本自分史センター」を有する春日井市で、自らの歩んできた人生を綴る「自分史」をより多くの世代に広めようと2017年度から取り組む演劇創作プロジェクト。演出家の有門正太郎と市民が参加者の思い出やエピソードをもとに、人生のワンシーンを共有しながら作品を創作。今回は

大ホールへ会場を移し、10～80歳代の市民25人が「恋」にまつわるエピソードをもとにした作品を上演する。

[日程] 2月29日、3月1日

[会場] 春日井市民会館



ワークショップでレクチャーする有門正太郎

### ●愛知県知立市

ちりゅう芸術創造協会

〒472-0026 知立市上重原町間瀬口116

Tel. 0566-83-8100 堀川克磨

<https://patio-chiryu.com/>

### 長線がつなぐ知立と沖縄

江戸時代、琉球使節団との交流により知立市に残された琉球古楽器「長線」を縁に、沖縄、知立それぞれの伝統芸能を披露する企画。世界遺産「知立の山車文楽とからくり」や、琉球使節団が披露した芸能「御座楽」の復元演奏が行われるほか、令和2年度開館20周年企画として制作される沖縄と知立の歴史的關係を描いた創作舞台『おさき玉城恋の八橋』の見どころを一部上演する。

[日程] 2月2日

[会場] パティオ池鯉鮒

### ●愛知県長久手市

長久手市文化の家

〒480-1166 長久手市野田農201

Tel. 0561-61-3411 齋藤あい

[https://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct\\_bunka\\_ie.html](https://www.city.nagakute.lg.jp/bunka/ct_bunka_ie.html)

### 劇王2020～人生を変える20分

長久手で生まれ、全国各地に広がった短編演劇連続上演イベント「劇王」。上演時間20分、役者3人以内、数分で舞台転換可能

という制約の下で上演され、観客とゲスト審査員の投票により優勝者が決定される。今回は、「世代交流は演劇で」をテーマにリニューアルを行い、中学生から大学生までを対象に劇王の芝居づくりを体験してもらう企画「げきたまご」に参加した8名による発表公演を同時開催。

[日程] 2月8日、9日

[会場] 長久手市文化の家



「劇王XI～アジア大会～」(2017年9月)で劇王に輝いた平塚直隆(オイスターズ)

### 近畿

#### ●三重県津市

三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11

Tel. 059-227-2100 速水豊

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

#### 没後30年 諏訪直樹展

1970年代後半から80年代にかけて活躍した四日市市出身の画家・諏訪直樹を取り上げ、三重県立美術館が所蔵する諏訪の全作品を展示し、その表現の変遷をたどる。また、「連鎖企画」として、諏訪の連作《無限連鎖する絵画》を分蔵する宇都宮美術館、目黒区美術館、千葉市美術館の3館でも諏訪の作品が展示される。

[日程] 2月1日～4月5日

[会場] 三重県立美術館

#### ●京都市

京都コンサートホール

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-26

Tel. 075-711-2980 高野裕子

<https://www.kyotoconcerthall.org/>

### 京都コンサートホール×文化会館5館連携事業「Join us (ジョイ・ナス)!～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～ジョイント・コンサート」

2019年度より開始した「Join us!～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～」プロジェクトにて、1年間アウトリーチ活動を行った3組の登録アーティストによるジョイントコンサート。登録アーティストの紹介の場でもあり、それぞれがアウトリーチの経験も活かしたプログラムを通じて「音楽の楽しみ方」を提案。クラシック音楽の公演が初めての人にも楽しめるコンサートになっている。

[日程] 3月1日

[会場] 京都市北文化会館

#### ●大阪市

大阪府立江之子島文化芸術創造センター-enoco

〒550-0006 大阪市西区江之子島2-1-34

Tel. 06-6441-8050 高坂玲子

<http://www.enokojima-art.jp/>

### 大阪府20世紀美術コレクション展「ココロハウツ」

大阪府が所蔵する美術コレクションの活用と展示の可能性を探ることを目的とした展覧会。第2弾の今回は大阪を拠点に活躍する写真家・麥牛田兵吾(むぎゅうだひょうご)を招聘。大阪府のコレクションの中から麥牛田が選んだ作品と、自身の作品を並べて展示する。作品を収蔵する立場の間人ではなく、日々作品を生み出すアーティストの眼を通してコレクションの魅力にふれることができる。

[日程] 1月17日～2月8日

[会場] 大阪府立江之子島文化芸術創造センター-enoco

#### ●大阪府岸和田市

3館合同事業実行委員会(岸和田市/岸和田文化事業協会/南



## ▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

海・TVKグループ)

〒596-0004 岸和田市荒木町  
1-17-1(マドカホール内)  
Tel. 072-443-3800 山本華奈子  
<https://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/10/chiharu-shiota.html>

### 塩田千春展 永遠の糸

2019年に森美術館(東京)で開催した個展「魂がふるえる」では、66万人以上を動員した現代美術家の塩田千春が、故郷である岸和田で初の個展を開く。黒や赤の糸を空間全体に張り巡らせるダイナミックなインスタレーションは彼女の代表的なシリーズ。観客は、目に見えない繋がりが、記憶、不安、夢、沈黙など、かたちの無いものを体感的、視覚的に意識させられる。

[日程] 2月5日～3月15日

[会場] マドカホール(岸和田市立文化会館)

### ●兵庫県西宮市

兵庫県立尼崎青少年創造劇場  
ピッコロシアター  
〒661-0012 尼崎市南塚口町  
3-17-8

Tel. 06-6426-1940 新倉奈々子  
<http://hyogo-arts.or.jp/piccolo/>

### 兵庫県立ピッコロ劇団第66回公演/ピッコロシアタープロデュース『夢をみせてよ』

ピッコロ劇団と関西で活躍する演劇人の力を広く結集してお届けするプロデュース公演第11弾。今回は、宝塚市の介助犬シンシアをはじめ、さまざまな犬と人との繋がりを題材とした物語を空晴の岡部尚子が書き下ろし、内藤裕敬が演出。視覚障がい者のための音声ガイド、骨伝導補聴器の貸し出しや、車椅子スペース、補助犬と共に鑑賞できるスペースの確保など、障がいのある方も公演を楽しめるよう鑑賞サポートも実施。

[日程] 2月28日～3月1日

[会場] 兵庫県立芸術文化セン

ター 阪急 中ホール

### ●兵庫県芦屋市

芦屋市立美術館  
〒659-0052 芦屋市伊勢町12-25  
Tel. 0797-38-5432 大槻晃実  
<http://ashiya-museum.jp>

### art trip vol.03 in number, new world / 四海の数

「art trip」シリーズは、同館のコレクションとともに現代美術の作品を紹介する展覧会。第3弾の今回は「数」をテーマに、1954年に芦屋で結成された前衛美術グループ「具体美術協会」でも活動していた今井祝雄をはじめ、国内外で活躍する久門剛史、津田道子、中村裕太の4名を招き、それぞれの作家が自身の作品と、所蔵品から選んだ作品を併せて展示する。

[日程] 2019年12月7日～2月9日

[会場] 芦屋市立美術館



今井祝雄《F氏との1時間》(1979年/セラチンシルバー・プリント) ©Norio Imai, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

### ●兵庫県伊丹市

いたみ文化・スポーツ財団  
〒664-0846 伊丹市伊丹2-4-1  
Tel. 072-782-2000 木原里佳  
<http://www.aihall.com/>

### MONO第47回公演『その鉄塔に男たちはいるという+』

MONO劇団結成30周年シリーズのラストを飾る公演。1998年に初演され、OMS戯曲賞を受賞した劇団の代表作をオリジナルキャストで上演するのに加え、同じ場所だが違う時代を描く新作の短編もプラスされた2作品を同時上演。コミカルなやりとりを通じて戦争という過酷な状況

を浮き彫りにした当初の作品にこの新作が加わることで、作品世界と現在の社会が地続きになり、新たな地平で物語が完結する。上田市、四日市市、北九州市、東京を巡演。

[日程] 2月13日～17日

[会場] AI・HALL(伊丹市立演劇ホール)

### ●奈良県奈良市

奈良県立美術館  
〒630-8213 奈良市登大路町10-6  
Tel. 0742-23-3968 深谷聡  
<http://www.pref.nara.jp/11842.htm>

### 生誕90年 田中一光 未来を照らすデザイン

2020年に生誕90年を迎える世界的グラフィックデザイナー・田中一光の業績を振り返る展覧会。幼少の頃から奈良の歴史文化に親しんだ一光は、ポスター・エディトリアルといったグラフィックデザインをはじめ、デザインの制作指導やプロデュースにおいても非凡な才能を発揮した。本展は、一光の創作活動の魅力や、一光が目指したデザインによる日本文化の発信を目指す姿勢を感じる機会になる。

[日程] 1月25日～3月15日

[会場] 奈良県立美術館

### 中国・四国

### ●島根県松江市

島根県立美術館  
〒690-0049 松江市袖師町1-5  
Tel. 0852-55-4700 三浦洋輔  
<https://www.shimane-art-museum.jp/>

### 柳宗理デザイン 美との対話

戦後日本を代表するプロダクトデザイナー・柳宗理の仕事の全体像が見られる企画展。民藝運動の創始者・柳宗悦を父にもつ宗理は、スプーンやフォークといった小さな生活用品から、高速道路の防音壁のような大型建造物、そして前回東京五輪の

聖火トーチもデザインしている。代表作の「バタフライツール」をはじめ、600点以上の作品展示のほか、日本民藝館館長も務めた宗理の蒐集品も展示。

[日程] 1月24日～3月23日

[会場] 島根県立美術館

### ●広島市

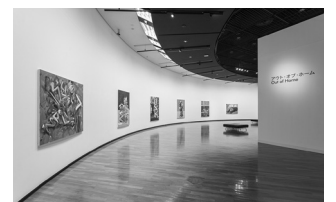
広島市現代美術館  
〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1  
Tel. 082-264-1121 竹口浩司  
<https://www.hiroshima-moca.jp/>

### アカルイ カテイ

明治・大正生まれから1980年代生まれまで異なる世代の作家11名を取り上げた展覧会。彼女・彼らの創作活動の中に「家庭」や「家族」がいかなる影を落とし、いかなる光を照らしているかを見ていく。それまでのイエ制度に代わるものとして、「家庭」や「家族」という言葉が日本で定着し始めたのは1880年代後半(明治20年前後)のこと。時代とともに現れるさまざまな家庭のかたちを、美術を通して見つめる。

[日程] 2019年12月21日～3月1日

[会場] 広島市現代美術館



「アカルイ カテイ」展示の様子  
撮影: 花田ケンイチ

### ●高知県須崎市

すさきまちかどギャラリー  
〒785-0004 須崎市青木町1-16  
Tel. 050-8803-8668 川鍋達  
<http://airsusaki.machikado-gallery.com/>

### 現代地方譚7 食ノ間(タベルノアイダ)

2014年から続く「現代地方譚」は、県外美術作家によるアー

ティスト・イン・レジデンスのほか、演劇や映像、音楽などで構成されるジャンルを跨いだ展覧会。7回目を迎える今回のテーマは「食ノ間(たべるのあいだ)」。人が生きるために必要不可欠な食べる“モノ”と“コト”との距離から、地域文化とは何かを考える。  
[日程] 1月18日～2月16日  
[会場] すさきまちかどギャラリー、新荘小学校、須崎市立市民文化会館、錦湯、鳴無神社

## 九州・沖縄

### ●北九州市

北九州市芸術文化振興財団  
〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1 国際交流センター内  
Tel. 093-663-6661 神田和範  
<http://www.hibiki-hall.jp/>

### OTEGARU Opera vol.4

#### 「フィガロの結婚」～フィアンセとIT社長、その妻と少年～

オペラに演劇の要素を加え再構成して上演する「OTEGARU Opera」シリーズの第4弾。今回はモーツァルトの傑作『フィガロの結婚』を取り上げる。構成・脚本・演出に飛ぶ劇場代表の泊篤志を迎え、原作の舞台である封建貴族社会を現代のIT企業に置き換えてストーリーを再構成し、現代人にもなじみやすい内容となっている。

[日程] 2月2日

[会場] 北九州市立響ホール

### ●福岡県直方市

直方谷尾美術館  
〒822-0017 直方市殿町10-35  
Tel. 0949-22-0038 市川靖子  
<http://yumenity.jp/tanio/top.html>

#### 子どものための美術館 な～んちゃってクリムト展

当該美術館で、絵を描いたりワークショップで工作を教えたりなど学芸員活動をしている「子どもスタッフ」が企画に加わった展覧会。グスタフ・クリムトの作

品を中心に、美術館の作品の鑑賞を経て、子どもスタッフが模写した“なんちゃって名画”を展示するとともに、市内の学童施設に通う子どもたちの絵画作品を展示する。会期中、子どもスタッフによるギャラリートークなどのイベントも開催される。

[日程] 1月4日～3月15日

[会場] 直方谷尾美術館

### ●福岡県春日市

春日市ふれあい文化センター  
〒816-0831 春日市大谷6-24  
Tel. 092-584-3366 樋口美佐子  
<https://www.kasuga-fureai.jp/>

#### 子ども食堂応援プロジェクト ～一品持ち寄りJAZZ LIVE～

入場料の代わりに保存可能な食材を持ち込むことで、子どものための居場所「子ども食堂」の支援に繋がるコンサートシリーズ。これまで開催していたカフェコンサートが盛況だったこともあり、今回は初の試みとして、ホールでジャズライブを行う。ライブの前には子ども食堂やフードバンクについての講話もあり、地域貢献に取り組むきっかけづくりにもなっている。

[日程] 2月15日

[会場] 春日市ふれあい文化センター

### ●鹿児島県鹿屋市

鹿屋市文化会館  
〒893-0007 鹿屋市北田町11107  
Tel. 0994-44-5115 栗元秀一  
<http://www.omega.ne.jp/rosy-town/kch/>

#### 高校生ミュージカル

##### 『ヒメとヒコ～ある王の物語～』

大隅半島の古墳を題材に、現代と1500年前の奄美大島を舞台に展開するオリジナルミュージカル。鹿屋市をはじめ大隅半島地域の高校生により毎年上演され、今年で13回目を迎える。

過去の舞台に出演したOB・OGが卒業後に演劇を学び、出演する現役高校生を指導したり、ミュージカル制作の活動の一環として地域の住民から伝統芸能を学ぶなど、作品を通じて地域の文化交流にも貢献している。

[日程] 2月8日、9日

[会場] 鹿屋市文化会館



前回の『ヒメとヒコ』公演(2019年2月)

### ●沖縄県那覇市

沖縄県立博物館・美術館  
〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1  
Tel. 098-941-8200 金城正仁  
<https://okimu.jp/>

#### 作家と現在 ARTISTS TODAY

沖縄にゆかりのある4名の作家(石川竜一、伊波リンド、根間智子、ミヤギトシ)による、写真と映像を中心とした企画展。沖縄が直面する現実や住民の生活をとらえた作品や、沖縄の風景に差し込まれるアメリカの風景などを写し出した作品のほか、石川の「home work」シリーズやミヤギの「How Many Nights」など、沖縄初公開の作品も展示される。期間中には、作家を招いてのギャラリートークやアーティストリレートークなども開催。

[日程] 2019年12月24日～2月2日

[会場] 沖縄県立博物館・美術館

### ●沖縄県沖縄市

THE AGYAAA SHOW運営事務局  
〒900-0001 那覇市港町2-16-1 琉球新報開発ビル4F(オリジン・コーポレーション内)  
Tel. 098-866-6118 池根愛美

<http://agyaaa.okinawa/>

#### THE AGYAAA SHOW

戦後75年の節目に、沖縄の戦後復興の歴史を歌や芝居・コントで振り返る涙と笑いの沖縄演芸ショー。あの世とこの世をつなぐ大混線ラジオ番組「THE AGYAAA SHOW」の公開放送という物語を軸に、時代の名曲や芝居、コント、伝統舞踊などをオムニバス形式で構成。公募で集まった沖縄市民30人と共に、戦後の喪失感をみんなで乗り越え、歌と笑いで復興を成し得た沖縄スピリットを伝える。

[日程] 2月11日

[会場] ミュージックタウン音市場

### 講座・シンポジウム

#### たいけん美じゅつ場VIVAオープン記念フォーラム

JR取手駅ビル内の新スペース「たいけん美じゅつ場」のオープンを記念したフォーラム。当スペースは取手市、東京藝術大学、JR東日本東京支社、アトレの4者が連携し、多くの人が行き交う駅ビル内でアートを通じたコミュニケーションを生み出す場を目指している。フォーラムでは監修を務める日比野克彦らが登壇し、今後の取り組みのひとつである「アートコミュニケーション」の役割や可能性について議論する。

[日程] 2月29日

[会場] たいけん美じゅつ場

[登壇者] 日比野克彦(東京藝術大学美術学部長)、吉川由美(八戸ポータルミュージアム はっち文化創造ディレクター)、伊藤達矢(東京藝術大学美術学部 特任准教授)

[問い合わせ] たいけん美じゅつ場事務局 Tel. 0297-85-5558

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4183  
letter@jafra.or.jp

#### ●福島県須賀川市

##### 須賀川市民交流センター tette

〒962-0845 須賀川市中町4-1

Tel. 0248-73-4407

<https://s-tette.jp>

◎2019年1月11日オープン



東日本大震災で甚大な被害を受けた中心市街地の再生と活性化を目指し、被害により取り壊しになった総合福祉センターに代わる施設を建設するにあたって、老朽化していた図書館と公民館の機能を導入し、複合施設として整備した。

創造的な復興を目指すためには新しい発想が必要だと考え、若手建築家と大手設計事務所の協働によるプロポーザル方式を採用。35回にわたる市民ワークショップを経て設計が行われた。須賀川市出身の特撮の神様・円谷英二を顕彰した「円谷英二ミュージアム」をはじめ、図書館や子育て支援施設、コミュニティFM等の多くの機能による複合施設であるが、機能性も重視しながら図書館機能と公民館機能を融合し、施設利用の目的を超えて人々が交流する場を生み出している。

また市民協働による施設運営を目指して「tetteパートナーズクラブ」を組織。現在76人が登録し、事業のパートナーとして活動中。

[施設概要] たいまつホール(約200人)、でんぜんホール(約50人)、図書館、こどもセンター、円谷英二ミュージアムほか

[設置・管理・運営者] 須賀川市  
[設計者] 石本建築事務所+畝森泰行建築設計事務所

#### ●東京都渋谷区

##### LINE CUBE SHIBUYA (渋谷公会堂)

〒150-0042 渋谷区宇田川町1-1

Tel. 03-5457-3304

<https://linecubeshibuya.com/>

◎2019年10月13日オープン



老朽化のため2015年に閉館・解体された渋谷公会堂がリニューアルオープン。旧渋谷区役所庁舎もある敷地の一部に定期借地権を設定することで、区の建設費負担をゼロとする方式を採用して一帯を整備。新公会堂では、エントランス前にピロティをつくり、ハワイエを公園通り側に配置することで、混雑緩和など周辺に配慮しつつ、内外のにぎわいが一体に感じられるよう設計されたほか、災害時には帰宅困難者受入施設としての活用も見込まれる。

最先端の次世代型ホールとして、渋谷に根づく文化を継承しつつ、あらゆる世代に対して新しい文化の発信拠点となることを目指して指定管理者を選定。ネットによる情報発信やチケットの電子化、電子決済対応の自動販売機の設置など、利用しやすさにも配慮した運営を行う。

[オープニング事業] Perfume「Re frame 2019」

[施設概要] ホール(最大1,956席)、楽屋7、シャワー室2

[設置者] 渋谷区

[管理・運営者] 渋谷公会堂プロジェクトチーム((株)アミューズ(代表企業)、LINE(株)、(株)パシフィックアートセンター)

[設計・監理者] (株)日本設計

[デザイン監修] (株)ホシノアーキテクツ

#### ●東京都豊島区

##### 池袋西口公園野外劇場

〒171-0021 豊島区西池袋1-8-26

Tel. 03-6912-5211(としま未来文化財団内)

<https://iwgp-management.com/>

◎2019年11月16日オープン



「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指して策定された豊島区国際アート・カルチャー都市構想の実現戦略のひとつとして、池袋西口公園を野外劇場を備えた劇場型公園としてリニューアル。

野外劇場のシンボルは、かつて池袋にあった「丸池」をモチーフに中空部に設置された直径35mの巨大リング型モニュメント「GLOBAL RING」。LEDライトや臨場感あふれる8chサウンドシステムなどが搭載され、舞台上部には大型ビジョンも設置。可動式の客席は立ち見も含めると約1,500人が収容可能で、常設ステージと仮設ステージの組み合わせにより、広場としての日常利用からフルオーケストラによるイベントに対応するほか、災害時には防災拠点になるなど、さまざまな用途に対応可能な施設となっている。

[オープニング事業] SPAC『マハーバーラタ〜ナラ王の冒険〜』東アジア文化都市2019豊島バージョン

[施設概要] 公園全体3,123m<sup>2</sup>、舞台約86m<sup>2</sup>、大型ビジョン(縦2,880mm×横10,800mm)ほか

[設置者] 豊島区

[管理・運営者] (公財)としま未来文化財団

[設計者] (株)三菱地所設計/  
(株)ランドスケープ・プラス

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 札幌市

サッポロ・シティ・ジャズ2019  
冬プログラム

### 「THEATER JAZZ LIVE」



上：特設ステージの入り口/下：ライブの様相 (Calmera) ©札幌市芸術文化財団

#### ● THEATER JAZZ LIVE

[日程] 2019年12月18日～22日 (7公演)

[会場] 札幌市文化芸術劇場 hitaru

[主催] サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会、札幌市、札幌芸術の森(公益財団法人札幌市芸術文化財団)ほか

※期間中には札幌市民交流プラザの各所でサッポロ・シティ・ジャズの冬プログラムとして入門的なレクチャーライブ「ユニバーサルジャズライブ」、書籍等を展示した「ジャズライブラリ」、「Do JAZZ 吹いてみよう、さわってみよう」、「K.Abeジャズ写真展」、トーク「ワンドリンクジャズカフェ」など関連事業を多数開催。

#### \*札幌市におけるジャズ事業

サッポロ・シティ・ジャズ実行委員会と公益財団法人札幌市芸術文化財団等の主催により、7つの柱で展開。①観光資源の創出(シアタージャズライブ等)、②企業・団体とのタイアップ事業(サッポロ・シティ・ジャズの関連事業として宿泊施設にアーティストを派遣する「ルスト100デイズミュージックナイト」等)、③交流プラザでの普及体験事業(入門型のジャズライブ、ジャズサロンプランナー育成、ワークショップ等)、④芸術の森野外フェスティバル(ノースジャムセッション)、⑤市民活動の促進(市民参加型のパークジャズライブ等)、⑥次世代の育成(札幌ジュニアジャズスクール、北海道ジャズの種プロジェクト、北海道グループキャンプ)、⑦アートの創造(札幌市在住のプロミュージシャンによるビッグバンドプロジェクト)。

2018年10月、札幌都心部に複合施設「札幌市民交流プラザ」(札幌文化芸術劇場 hitaru、札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌市図書・情報館)がオープン。その hitaru の舞台が飲食もできるライブシアターにトランスフォームした「THEATER JAZZ LIVE」が昨年12月に開催された。これは、2007年から大通公園の特設テントで行われていた「サッポロ・シティ・ジャズ」の新展開として企画されたものだ。劇場がオープンしたことを受けて、夏に札幌芸術の森で行う野外ライブと街中で行う「PARK JAZZ LIVE」(全国から約300団体が参加)、冬に劇場で行う THEATER JAZZ LIVE という2つのプログラムに拡充。12月20日、21日、2回目となる試み取材した。



全面ガラス張りのプラザは、大通駅に地下道で直結する絶好の立地にあり、多くのオフィシャルスポンサーが付いている。市民文化活動・芸術文化普及拠点施設の SCARTS は、クラシック音楽・美術・舞台芸術のノウハウをもつ指定管理者の札幌市芸術文化財団による多彩な取り組みや市民活動で連日賑わっているという。「他の文化施設とも連携し、市民が幅広い表現と出会うためのサテライトになっている。ここで何をやるのが一番良いか探っている段階」と SCARTS プログラムディレクターの吉崎元章さんは言う。

hitaru は2018年9月末に閉館したニトリ文化ホール(旧北海道厚生年金会館)の後継施設で、北海道最大の2,302席を誇る。主催事業としてオペラやバレエなどの大規模鑑賞事業を展開し、オープン早々に貸館稼働はマックスになっている。THEATER JAZZ LIVE では、舞台前面に神殿風の高い柱が聳えるオペラ幕の入り口が設えられていた。そこを通過して舞台上行くと、天井高約30mの大空間の奥に映像スクリーンのあるステージ、バトンには巨大な LED シャンデリアと32個のスピーカー、レストランのようなテーブルとイス(472席)が設置され、劇場ならではの音響や照明を駆使したスケール感のある豪華なライブシアターが出現した。

20日夜はスティーブ・ガッド率いる凄腕のジャ

ズバンド、21日昼は大阪を拠点にしたエンターテインメントな人気若手バンド Calmera を聴いたが、至近距離のグルーブ感に加え、どこで聴いても音の歪みがない。満席の観客の半数以上が普段ホールに来場することの少ないミドルエイジの男性で、下手上手の飲食ブースでワインやオードブルを購入し、リラックスしながらライブをエンジョイ。協賛企業が52社もクレジットされ、ジャズという音楽を楽しむ大人のライフスタイルを劇場に持ち込むとともに、舞台空間の使い方の可能性を拓いた企画となっていた。

hitaru 事業課長の高橋秀典さんは、「保健所や消防署の許可も必要なので、劇場の管理部門、技術部門の全面協力がなければ実現しなかった」と言い、舞台技術部長の伊藤久幸さんは、「スピーカー企業と協力して綿密な音響実験をした。プロの音響技術者を招き、実際に音を聴いてもらう研修会も開いた」と胸を張る。

財団のジャズ事業を統括する右谷誠さんは、1999年に札幌芸術の森を拠点にスタートしたジャズ事業はこの20年で大きく発展したと話す。

「サッポロ・シティ・ジャズでは優勝者が海外フェスに出演できるコンテストを続けている。その優勝者たちをはじめ約100名ぐらいのミュージシャンとネットワークがある。ホテルなどで演奏するイベントも年数百回行っている。約50人が所属するジュニアジャズスクールは今期20年目になるが、この間道内のジュニアジャズを支援する『北海道ジャズの種プロジェクト』もスタートした。16年に4カ国のジュニアを札幌に招いた合宿をきっかけに国際交流事業を立ち上げ、今年6月にはマレーシアに行く。パークリー音楽大学の教授陣を招いて合宿するグループキャンプでは、特待生をパークリーに派遣しているが、そこからプロミュージシャンも育っている。12年には札幌市内のプロ17名によるビッグバンド『札幌ジャズアンビシャス』も立ち上げた。これからは札幌＝ジャズのブランディングを進めて、もっと国際的な広がりをつくっていききたい」

1点突破でこれだけの広がりをつくった札幌なら、日本のジャズの新たな聖地になるのも夢ではないと感じた。(坪池栄子)